

畿央大学

大学院教育学研究科シンポジウム

「障害理解教育」の実践における

「障害観」の再検討

ー私たちはそこで何を教え、考えるのか？

2022年2/23(水・祝)

13:00～16:30

オンライン(Zoom)開催

学校現場において、子どもたちが「障害」について系統的に学ぶ「障害理解教育」の必要性は認識されつつあり、学習指導要領やインクルーシブ教育システム構築の文脈において「障害理解」に関連する「交流及び共同学習」の推進の重要性が示されています。しかし、実際に「何を」「どのように」行えばよいのか、具体的などころまで検討を深めていくことは容易ではありません。

本シンポジウムでは、「障害理解教育」の実践における「障害観」の在り方、つまり「障害理解教育」において子どもたちに教える「障害」とはどのようなものであるべきなのかについて検討を重ねていきたいと考えています。

講演 「不如意の身体に五つある」

立岩 真也氏 (立命館大学大学院 先端総合学術研究科 教授)

「まともがゆれるー常識をやめる『スウィング』の実験」

木ノ戸 昌幸氏 (NPO法人スウィング)

コーディネーター

大久保 賢一 (畿央大学大学院 教育学研究科 教授)
塩原 佳典 (畿央大学大学院 教育学研究科 准教授)

参加費 無料

申込方法

申込フォーム(右記QRコード)からお申込みください。

FAXの場合は、裏面の必要事項を記載し、FAX:0745-54-1600までお送りください。

※開催日前日に申込みメールアドレス宛に参加URLを送付します。

※定員に達し次第、受付を終了いたしますので、受付ができましたら参加していただけます。

後援

奈良県教育委員会 広陵町教育委員会 香芝市教育委員会 大和高田市教育委員会



畿央大学大学院教育学研究科シンポジウム

「障害理解教育」の実践における「障害観」の再検討

ー私たちはそこで何を教え、考えるのか？

学校現場において、子どもたちが「障害」について系統的に学ぶ「障害理解教育」の必要性は認識されつつあり、学習指導要領やインクルーシブ教育システム構築の文脈において「障害理解」に関連する「交流及び共同学習」の推進の重要性が示されています。しかし、実際に「何を」「どのように」行えばよいのか、具体的なところまで検討を深めていくことは容易ではありません。これまでの「障害理解教育」は、「障害」という属性を持つ人々に関する科学的理解や差別解消、ノーマライゼーション・インクルージョンが志向されてはいるものの、その大部分に「障害者」と「非障害者」を二つに分ける二元論が根底にあり、マジョリティである「非障害者」が、マイノリティである「障害者」について理解することを目的とするという構造になっています。また、このような二元論的な障害観は、「障害」の問題を個人化することに繋がり、結果として「社会現象としての障害」から人々の目を逸らせてしまう結果に至ることが懸念されます。

そこで本シンポジウムでは、「障害理解教育」の実践における「障害観」の在り方、つまり「障害理解教育」において子どもたちに教える「障害」とはどのようなものであるべきなのかについて検討を重ねていきたいと考えています。

申込方法

申込フォーム(右記QRコード)からお申込みください。

FAXの場合は、下記に必要事項を記載し、FAX:0745-54-1600までお送りください。

※開催日前日に申込みメールアドレス宛に参加URLを送付します。

※定員に達し次第、受付を終了いたしますので、受付ができましたら参加していただけます。



フリガナ

名 前

勤務先・所属

電話番号
(連絡先)

E-mail

本シンポジウムは何を通じて知ったかをお聞かせください。

☐大学公式HP

☐大学公式Facebook

☐大学公式Twitter

☐所属先の案内

☐知り合いからの紹介

☐講師のSNS

☐教育委員会の案内

☐その他()